



# レファレンス通信

## No.24

2015.6

石川県立図書館  
利用サービスグループ  
〒920-0964  
金沢市本多町 3-2-15

## 江戸・東京と石川県

北陸新幹線金沢開業により、東京へは金沢から約2時間半で行けるようになり、より身近に感じられるようになりました。東京は江戸時代以来、日本の首都として、石川県とも深いつながりを持っています。今回は、江戸(東京)と石川県の関わりに焦点を当てたレファレンス事例と関連資料を、いくつかご紹介します。

Q1.江戸における加賀鳶の活動や組織体制、成立について書かれた資料で、活字化されたものを探している。

○『国史大辞典 3』(1983年、吉川弘文館、210.03/95/3)のp.144「加賀鳶」の項目には以下のように書かれています。

江戸の消防組織のうち、武家の消防隊としては定火消・大名火消・方角火消などがあったが、そのほかに大名自身とその自邸および附近の火災に備えて組織したものがあった。このような火消のうち加賀藩前田家が召し抱えていた火消人足を俗に加賀鳶と呼んだ。(以下、略。)

○加賀鳶の起こりと組織については、『加能郷土辞彙 改訂増補』(1979年、北国新聞社、p.158～159、K030/1)に記載があります。

起こりは、享保2年に徳川吉宗が禄高1万石以上の大名に、各自の江戸藩邸を火災から守る大名火消を設置するよう命じた事にはじまります。これを受けて加賀藩では、藩主前田綱紀が従来の消防組織を豪華なものに拡張しました。その華麗さは著名な歌舞伎の題材になったほどです。組織は、本郷の加賀藩邸にあって、1番手から3番手に別けられ、そろいの紋を付けた革羽織を着て、藩士が部隊長の任に当たりました。(本文から要約)

その他には、以下の資料があります。

○『書府太郎 上巻 石川県大百科事典』(2004年、北国新聞社、K030/1001/1)  
p.252～253に「加賀鳶」の項目があります。

○『石川県消防史』(1961年、石川県消防協会、K068/1001/001-2)  
p.16～22に「加賀鳶」の項があり、加賀鳶の沿革、活動について書かれています。

- 『加賀鳶と梯子登りのあゆみ』(1994年、加賀とびはしご登り保存会、K385/85)  
p.11～27に加賀鳶について触れています。第一項「加賀鳶の由来」、第二項「加賀江戸藩邸と鳶」という構成になっています。
- 『江戸火消年代記』(1962年、創思社、317.7/77)  
p.139～150に「加賀鳶」の項があります。
- 『可観小説 前編 加越能叢書』(1936年、金沢文化協会、K080/2/5)  
巻四に「一、仙石兵庫火消と加賀鳶の喧嘩」(p.67～70)が記載されています。
- 『加賀松雲公 上巻』(1908年、羽野知頭、K288.5/50/1)  
「第二十六章 弓町防火の紛議」に「第七節 加賀鳶」(p.618～625)があります。

## Q2.東京で活躍する石川県出身者を調べるためにはどんな資料を見たらよいか。

石川県で生まれ育って、東京で活動している著名人について調べるというケースは少なからずあります。そういった際に手がかりとなる資料を以下に掲げたいと思います。

- 『石川県人物人材情報リスト2015』(2014年、日外アソシエーツ、K280/137/015)  
現在活躍中の人物を中心に、石川県関係者を活動分野別に収録しています。東京で活躍する石川県出身者も多く掲載されています。
- 『書府太郎 石川県大百科事典 上巻』(2004年、北国新聞社、K030/1003/1)  
「人物」の章に、石川県を理解する上で欠かせない人物が収められており、東京で活躍した人物も多く収録されています。
- 『月刊 加能人 全国石川県人会連合会機関誌』加能人社(雑誌)  
石川県出身者に、郷土である石川県のニュースや情報を伝える情報誌です。「活躍する県人」「石川県出身者の動き」等、東京をはじめとする県外で活動する石川県出身者についての記事が多く収録されています。
- 『ど根性一県外で活躍する石川県人』(1966年、北国新聞社、K280/72)  
県外で活躍する石川県出身者を紹介している本ですが、各人物の立志伝が読み物風に紹介されています。戦後の東京での活躍ぶりもわかります。
- 『家庭の鑑』(1934年、北日本社、K280/90)  
戦前に金沢で発行された修身書ですが、その中の「現代名流一人一得」の章で、当時東京をはじめ全国で活躍していた石川県出身者を知る事が出来ます。

調べものは調査相談カウンターまで

電話：076-223-9575

FAX：076-222-2531

メール:chosa@pref.ishikawa.lg.jp